

平成 23 年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
セレクションコミッティー・強化委員会	<p><道外および国体へ向けた大会></p> <p>① 第 48 回東日本都道府県対抗大会</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日程：7月15日～18日・ 会場：岩手県八幡平市上寄木グラウンド、北海道は、開催県、東京都と同様に予選会へは出場せず、本大会へ出場する。・ 宿泊先：岩手県八幡平市安比高原・ 7/16 vs 東京都 21-38 B ブロック決勝へ・ 7/18vs 茨城県 20-22 B ブロック準優勝	<p><成果></p> <p>大学、クラブのトップ選手で構成した、選抜チームは、山口キャプテンを中心にミーティングを重ねゲームの中でもコミュニケーションを図り、代表チームの目的を理解して取り組むことができた。</p> <p>ブロック分け戦は、昨年同様東京代表と対戦した。</p> <p>善戦したが、キャノン、日野などのトップイーストで活躍している選手と闘えたこと経験は大きな経験となった。</p> <p>B ブロック決勝では、茨城代表との対戦。ゲームは北海道ペースで運んだが惜しくも勝利することはできなかったが、最後まで走り、フォローしたゲームが出来たことは、大きな成果であった。</p> <p><課題></p> <p>初戦からチームスキルが計られる準備ができれば A 決勝も十分狙えると考える。</p>
	<p>② 第 66 回国民体育大会</p> <p>東北・北海道ブロック間代表決定戦</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日程：8月27日～28日・ 会場：札幌市月寒屋外競技場・ 8/28 vs 秋田県 29-31	<p><成果></p> <p>今年は東北を制した、秋田県(ノーザンブレッズ)と対戦した。</p> <p>北海道は、秋田にスコアーされた後も、得点チャンスでスコアーし、相手を追いつめたものの、東北代表である秋田に勝利することはできなかった。</p> <p>勝利まで後 1 歩と迫ったことは大きな成果であったと考える。</p> <p>又、北海道は得点能力が高く、どのゲームでも 20 点以上スコアーしている点は特筆すべきと考える。</p> <p><課題></p> <p>北海道の短いシーズンの中いろんな大会がある厳しいスケジュールの中、代表チームとしてのディフェンススキルをいかに確率し、20 点未満に抑えることができるかが、勝利するための課題と考える。</p>

平成 23 年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
セレクションコミッティー・強化委員会	<p><セレコン・強化・普及へ向けた事業></p> <p>③ 平成 23 年度委員会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日程：4月23日(土) 13:00～ ・ 会場：開発工営社 会議室 ・ アスティー45ビル 13階 ・ 札幌市中央区北4条西5丁目 <p>④ 代表候補セレクションマッチ開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日程：6月5日(日) 13:00KO ・ 会場：定山溪 BB ラグビー場 <p>⑤ 男子7S</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日程：7月31日(日) 11:00KO ・ 会場：定山溪 BB ラグビー場 <p>⑥ 女子7s</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日程：8月28日(日) ・ 会場：札幌市月寒ラグビー場 	<p><成果></p> <p>高校・大学・社会人の委員に女子普及の委員が集まり、事業計画等について協議した。</p> <p>例年の大会に女子と男子のセブンズの実施について、取り決めたことが成果であった。</p> <p><課題></p> <p>H25年度より成年国体がセブンズへ移行することから、男女あわせての普及と強化が急務と考える。</p> <p><成果></p> <p>新人に加えベテランも参加したことで実力が明確になり選考に大きな成果があった。</p> <p><課題></p> <p>H25年度以降に向けた新たな取り組み(7'Sと15人制など)が必要であり、北海道全体からのセレクトに向けた新しい試みも必要な時期に入っており、その具策の検討が必要と考える。</p> <p><成果></p> <p>H25年度からの成年国体及び2016リオデジャネイロでのオリンピックから正式種目になる7S大会が開催出来たことは大きな成果であった。</p> <p><課題></p> <p>参加チームがサツテツ、闘球会、JRの3チームとなったことは、残念でありスケジュールなど全体の見直しが必要と考える。</p> <p><成果></p> <p>昨年に引き続き開催出来たことは大きな成果であった。</p> <p><課題></p> <p>大会の継続開催。地域ごとの女子ラグビーの取組(小グループを取りまとめチームの設立)支援(コーチなどの派遣)などが必要と考える。</p>

平成23年度 各委員会活動報告

委員会名	事業名及び 実施月日	成果及び課題
レ フ リ ー ソ サ エ テ ィ	1 レフリーソサエティ会議 ① 4月17日(日) ② 7月1日(金) ③ 1月14日(土) 2 レフリー研修会 ① 6月14日～15日 (帯広) 国体少年の部予選 ② 7月1日～3日、10日 (野幌他) 北海道選手権大会 ③ 7月25日～30日 (江別他) 北海道高校 選抜大会 ④ 1月14日～15日(札幌) NTTセミナーセンター 3 C級レフリー認定講習会 各地区毎に実施。 4 ルール伝達講習会 5 各種大会へのレフリー派遣 大会主管理事からの要請に基づ き必要人数を派遣。 6 その他 ・主なレフリーのスケジュール確 認と調整。 ・ゲーム担当後のレフリーミーテ イングの実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・ シーズン終了後に成果や課題等の検証を兼ねた委員会の開催を実施した。 ・ 研修会全般としては、概ね目的を達成して終わることが出来た。 ・ 特に1月には、冬季の研修を実施し、委員会指名の若手レフリーの意識向上に資することが出来た。 ・ 北海道選手権の帯同レフリーの資質向上が課題である。 ・ 継続したレフリー評価、レフリーコーチの体制構築が課題となった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道選手権大会の監督主将会議の時にルーリング通達の説明を行った。 ・ スケジュール調整が難しいため、早期に大会要項の送付も含めて、担当理事からの正式な必要人数等の要請が必要である。 ・ 今年も一部のレフリーに負担加重の状況が見られた。 (実働B級レフリーや若手レフリーの絶対数不足、北海道内トップレフリーの高齢化) ※極めて大きな課題である。 ・ 資質のある有望レフリーの発掘が課題である。
年 度 反 省		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現役のレフリーも年々高齢化が進んでおり、早期に安定感のある若手レフリーの確保と、B級やC級レフリーの資質向上を図ることが課題である。 また、現役選手が積極的にレフリーを目指さなければ、走力やゲーム感覚等の影響も大きく、将来的に息の長いトップレベルのレフリーを養成することが困難なため、各チームから有望な人員を多く推薦してもらうことが不可欠である。 ・ 一人のレフリーに対する継続した評価をすることが資質向上のためには必要であるので、今後、その体制を組織化していくことが必要となっている。

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
競 技 委 員 会	<p>第41回北海道ラグビーフットボール選手権大会</p> <p>平成23年7月1日(金)・7月2日(土)・7月3日(日)・7月10日(日)</p> <p>北海道立野幌総合運動公園ラグビー場二面 千歳青葉公園ラグビー場 苫小牧市緑ヶ丘公園ラグビー場二面 バーバリアンズ定山溪グラウンド二面</p>	<p style="text-align: center;">成 果</p> <p>1. 競技面</p> <p>Aブロック決勝は3年連続北海道バーバリアンズAと北海道大学の対戦となった。試合結果は、昨年の素晴らしいディフェンスの攻防の試合とは違い、大方の予想を裏切り、69対0という一方的な試合になった。北海道バーバリアンズは3年連続15回目の優勝を果たした。Bブロックは、10年連続優勝して昇格した注目のJR北海道と昨年Aブロックから降格しAブロック昇格を目指す道都大学の対戦となり前半10対10と接戦からJR北海道が後半地力を発揮し43対22で11年連続優勝を飾った。11年連続という地道な努力と結果に敬意を心から表するとともに来年度のAブロックでも好成績を残すことを期待したい。Cブロックは今年度からとちかRFCとチェスガーが合同チームを結成しクラブ選手権でも心境著しいとかチェスAと小樽商大の対戦となり、24対12でとかチェスAが優勝を果たした。</p> <p>大学では北海道大学、道都大学、札幌大学、Bブロック復帰を果たした小樽商大が充実し、現役とOBの合同チームの北菱クラブA、B、釧路公立大学・教育大学釧路校合同、札幌学院・北翔大の合同チームが健闘し、クラブでは地域を代表する形の十勝支部のとかチェスのような合同チームや北見支部のOKHOTSK・BLUE、釧路支部の釧路公立大、教育大釧路校や札幌支部の札幌学院大・北翔大合同、よりづかちよいスポ倶楽部のCOLLEGEHOUSEのような新しい形のチームも目立ち始め、今後の組織化と活動を注目していきたい。</p> <p>2. 運営面</p> <p>① グラウンド運営</p> <p>グラウンド固定により、札幌・苫小牧担当支部の各社会人クラブ及び各委員会の運営能力も向上し、運営は円滑に運び、目立ったトラブルはなかった。</p> <p>② ブロック別グラウンド割り付け効果</p> <p>ここ数年ブロック内チームが共同で運営管理することにより運営が円滑に行われている。前年度40周年記念事業として行われた試合後のアフターマッチファンクション実施は、ラグビー精神の涵養のためにも継続すべきであると意見が出た。</p>

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
競技委員会		<p>③ 安全対策 全グラウンドにグラウンドドクターの配置及びドクターバッグの設置を行ない熱中症対策、マウスガード普及の講習を監督主将会議において実施した。</p> <p>④ 芝生グラウンドにおける全試合実施 芝生のグラウンドでの試合実施が定着しつつある。土にグラウンドが当たり前という時代から、ラグビーは芝生のグラウンドとするスポーツという概念に確実に変化したと言える。10年前と比べると隔世の感がある。野幌グラウンドの状態が例年に比較すると悪い。土のグラウンドに後戻りすることのないよう事務所と交渉をして行きたい。</p> <p style="text-align: center;">課題と対策</p> <p>① チーム数 一昨年の83チームから昨年77チーム、今年度74チームと9チーム減となりチームの減少傾向が続いている。チーム登録人数の減少に伴い、単独でチームを維持することが厳しくなり、合同チームで参加するようになった。結果、競技力は維持できるようになり、優勝チームも出るようになっているが競技人口の増加にはまだ繋がっていない。オーバー35チームの組織化等を行ない、競技人口の増加を図って行きたい。</p> <p>② 日程 昨年問題提起のあった日程問題は大学委員会了解のもと例年通り7月第1週に大会実施をした。大学、社会人クラブの各大会、合宿の関係上、今後7月第1週土日実施で固定して調整を図って行きたい。</p> <p>③ グラウンド 例年通り、野幌グラウンド二面、定山溪グラウンド二面、千歳青葉公園グラウンド、苫小牧グラウンド二面の計7グラウンドで行った。</p> <p>④ 競技時間 決勝戦の競技時間が昨年からAブロック40分、Bブロック35分で初めて実施された。クラブ選手権では40分ハーフで実施されており、40分ゲームを経験しているチームと25分ハーフの経験しかないチーム力の差が後半に現れる結果になっている。</p>

委員名	事業名及び実施日	成果及び課題
競 技 委 員 会		<p>東日本、全国大会に出場するチームの為に上位ブロックは40分試合にすべきである。</p> <p>⑤ 帯同レフリー制度及び1試合2レフリー 帯同レフリーのないチームが無いように大学委員会、社会人クラブ委員会、各支部に養成をお願いしたい。レフリー経験のないレフリーに対して笛を吹かすことによる改善要望がでており、資格だけ持っているペーパードライバー的なレフリーについては事前に報告のあるように改善を図りたい。毎年のものであるが競技者側からは1試合1レフリーの要望が毎年でている。</p> <p>⑥ 安全対策 一昨年度の苫小牧会場で頸損事故が発生の反省を踏まえ、事故予防対策として事故防止講習会の開催を行なった。 課題としてマウスガード普及や義務付けに向けて体制づくりを行っていききたい。</p> <p>⑦ 事業費 総予算は昨年度より3チーム減の74チームとなり参加費222万円、広告費239,580円を含め2,459,500円と過去最低の総予算の中経費削減に努め、昨年より多少多く北海道協会事業費は、1,219,680円となった。</p> <p>19年度事業決算 $1,206,738 / 2,730,000 = 1,523.262$ 20年度事業決算 $1,142,338 / 2,580,000 = 1,437.662$ 21年度事業決算 $1,471,677 / 2,760,000 = 1,288.323$ 22年度事業予算 $1,463,000 / 2,760,000 = 1,300.000$ 22年度事業決算 $1,484,359 / 2,630,000 = 1,145.641$ 23年度事業予算 $1,239,900 / 2,459,580 = 1,219.680$</p> <p>なるべく経費節減に努め出来るだけ多く北海道協会事業運営費を作りだすように努めたい。</p>

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
コーチ委員会	2011 安全推進講習会 函館 3月13日 三浦・額賀 胆振・小樽・札幌合同開催 4月2日 金山・森 空知・富良野合同開催 3月19日 増谷・林 十勝 3月27日 増谷龍・新 根釧 4月2日 増谷 北見 4月24日 増谷龍・萩原 旭川 4月23日 増谷龍・辻	ラックにおける事故防止とトレーニング について実施 元同志社林監督の体験 DVD 使い研修 年々課題が身近なテーマで充実してきている。「ラグビーにおける外傷・障害対応マニュアル」の義務付け購入と安全に対する意識啓蒙が図られた。 指導者・選手は過去に取り上げたタックル・スクラム・体幹トレーニング・熱中症など日々取り組み継続をして欲しい。
	新スタートコーチ資格取得講習会 期日 6月4日 会場 旭川工業高校 講師 増谷和夫・助手 平間慎理 受講者数 13名 期日 6月5日 会場 札幌大学 講師 増谷和夫 助手 蓑内豊 長谷川竜介 受講者数 42名 期日 2月5日 会場 北海道大学 講師 増谷和夫 助手 蓑内豊 受講生 18名	モデルとして旭川工業高校ラグビー部員及び札幌では、札幌大学ラグビー部員の協力を頂き実施しました。 旭川は、普及に関わって活動されている方が多かった。 札幌は、大学生・クラブチーム・普及活動に関わる方々で実技指導は、レベルの高いコーチが多かった。 女子のコーチが 5 名参加しこれからの活動が期待される。 11 月末に大学から来年度登録の関係で講習会開催が要望され、北大会場で実施した。 北大ラグビー部 30 名モデルで出来ました。
	ブラッシュアップ講習会 期日 10月30日 会場 帯広工業高校 講師 増谷和夫・増谷龍大・田村朋弘 1. 他競技に学ぶ 「札幌山の手女子バスケット部全国三冠記録DVD」コーチの役割 2. 事故防止 安全推進講習内容の継続 3. ゲーム分析 Wカップ壮行試合 「アメリカ VS 日本」 受講生 15名 期日 11月6日 会場 北星学園大学 講師 増谷和夫 蓑内 豊 受講生 10名	「他競技から学ぶ」 札幌山の手バスケット部取り上げ研修の中で <u>褒めずに伸ばすにかなり討議がなされた。</u> 課題の見つけ方及び克服に取り組む選手の努力と理解力にコーチの役割何か？ 事故防止の取り組み状況を研修生から発表。日本協会から示された4Hの成果はどうか？今の日本に何が必要か？私たちは、どう関わればよいか？等を研修した。 帯広・札幌で支部の要望に応じて開催が出来て良かった。参加者が少し少ないと思った。

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
	<p>コーチ委員会 期日平成23年12月18日 会場札幌 事業報告 協議事項 育成コーチ資格取得講習会</p>	<p>各支部から、育成コーチの資格希望があり平成24年5月26日・27日6月2日・3日札幌北星学園大学会場で開催します。日体協と連携しています。IRBレベル2コーチ取得も出来ます</p>

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会	<p>【委員会会議】</p> <p>●第1回普及育成委員会 期日 平成23年5月7日(土) 場所 札幌市生涯学習センター ちえりあ</p> <p>●第2回普及育成委員会 期日 平成23年1月8日(日) 場所 JR北海道研修センター</p> <p>【タグラグビー指導者研修会】</p> <p>第1回 期日 5月22日(日) 会場 北広島市 道都大学ラグビー場 対象 タグラグビー指導希望者 参加 7名</p> <p>【道協会主催招待試合】</p> <p>●慶応大学 vs 明治大学 前座試合 期日 6月19日(日) 会場 札幌月寒ラグビー場 対象 ラグビースクール小学生 参加チーム 函館ラグビースクール ニセコラグビークラブ 北海道バーバリアンズ Jr 札幌ラグビースクール 旭川少年ラグビースクール</p>	<p>委員会委員構成16名 (出席委員15名)</p> <p>委員会委員構成16名 (出席委員15名)</p> <p><成果> 参加人数は7名と少なかったが、小学生向けの導入方法、実際に大人同士のタグラグビーの試合体験などを通じ、ラグビーとタグラグビーの違いを実感できる講習となった。</p> <p><課題> 小学校教員への浸透が薄く、講習会の開催により今以上の普及が急務。</p> <p><成果> 小学生選手にとって観客の前でのゲームは大変励みになった。</p>

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会	<p>【各種大会】</p> <p>●第30回北海道スクール中学生大会 ●第23回北海道スクール小学生大会 期日 9月17(土)・18日(日) 会場 野幌総合運動公園ラグビー場 参加者 小学生 10チーム 240名 中学生 8チーム 100名 指導者 80名 保護者 150名</p> <p>札幌ラグビースクール 北海道バーバリアンズJr 小樽ラグビー少年団 ニセコラグビークラブ 函館ラグビースクール 帯広ラグビースクール 旭川ラグビースクール 富良野ラグビースクール スピリッツオブオホーツク 美幌ラグビー少年団</p> <p>●第8回北海道小学生タグラグビー選手権大会 (兼サントリーカップ第8回全国小学生タグラグビー北海道ブロック大会) 期日 24年1月9日(月) 会場 北広島市総合体育館 参加数 12チーム 選手 115名 帯同コーチ 40名</p>	<p><成果></p> <p>①あいにくの雨天開催となったが、グラウンドを2面使用し、参加人数も前年を上回った。 ②中学生は17日18日の2日間にわたってのリーグ戦を行い、予選順位をもとに優勝決定戦とする方法を取った大会となった。 ③小学生大会においても、親善試合では有りましたが元気一杯のゲームとなった。 ④年1回の北海道全てのスクール選手による賑やかな大会であった。 ⑤毎年の事だが、各スクール共、熱心で献身的な指導者と保護者に支えられて継続されている大会として更なる発展のためにスクール生拡大の必要性を認識した。</p> <p><課題></p> <p>①ジュニアにあっては、安全対策を第1と考え1年生と2・3年生カテゴリーを分けて実施した。更にスクール生不足の折、1チームを編成できないスクールも有り、合同チーム編成での対戦となった事も現状では致し方ない。</p> <p>「支部予選参加チーム数」</p> <p>・函館 9チーム ・札幌 13チーム ・空知 3チーム ・富良野 17チーム ・十勝 9チーム ・根釧 2チーム ・北見 6チーム ・旭川 6チーム 計 65チーム</p> <p><成果></p> <p>①支部予選チーム数は昨年より総数で10チーム増加した。だが、開催に至らなかった支部が2支部あり、更に来年度全支部実施に向け努力をしていく。 ②回を重ねるごとに選手のプレーも向上し、フルラグビーとは別の魅力をもったタグラグビーの良さを存分に発揮している。</p> <p><課題></p> <p>①学習指導要領に入ったこの時期に、小学校へのアピールを道協会や支部協会との連携で積極的に進めていくべきである。</p>

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会	<p>● サントリーカップ 第8回全国小学生ラグビー 決勝大会 平成24年3月17日18日 会場 秩父宮ラグビー場 国立競技場 「富良野へそタグズA」</p> <p>【強化合宿】</p> <p>◆ 第1次強化合宿 8月27日(土)～28日(日) 於：野幌運動公園ラグビー場 参加 選手40名 コーチ15名</p> <p>◆ 第2次強化合宿 10月1日(土)～2日(日) 於：野幌運動公園ラグビー場 参加 選手27名 コーチ15名</p> <p>◆ 第3次強化合宿 11月5日(土)～6日(日) 於：小樽望洋グラウンド 参加 選手22名 コーチ15名</p>	<p><成果></p> <p>① 予選プール0勝2引分け3位でボール トーナメント出場</p> <p>北海道と全国の技術的な差は無いものの、 室内競技としている北海道チームの縦のプ レーでは無く、屋外球技としての空間を広く 使うプレーとの違いが今後の課題である。</p> <p><成果></p> <p>ジュニア協議水準の向上を図るとともに、東 日本ジュニアスクール大会参加チームの選 抜および強化を目的として3回の強化合宿 を実施した。</p> <p>①これまでの選抜チーム指導員に加えて、若 い世代のコーチ陣を招集し、広く強化方針の 共有が実現した。</p> <p>②ミニ・ジュニアを中心としたスクール・ク ラブ・ジュニアチーム選手の最終的な目標と なり、参加のモチベーションも年々向上して いる。</p> <p>③交流事業の合同練習会を含めて、北海道協 会としてのジュニア指導のスキームが確立 した。</p> <p><課題></p> <p>①ジュニア強化は選手層の増加が必須。中学 生の競技人口の拡大を図る必要がある。</p> <p>②ミニ・ジュニアの各チームの指導項目・方 法等の共有化を促進するため、道協会HP内 に指導資料の共有フォルダを作成し、利用が 図られている。</p> <p>③各スクール間が遠く、競技力向上のための 定期的な交流が不足しており、合同練習会及 び強化合宿のほかに、交流事業を含めて実施 が必要。</p> <p>④高校ラグビーとの連携を図り、普及および 強化を図りたい。また、高校指導者との協力 によって指導方法の統一化を検討したい。</p> <p>⑤全国ジュニア大会直前の冬期間の練習や 試合機会の創出が必要である。</p>

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会	<p>● U-15 選抜北海道ジュニア合宿 期日 24年2月11日(土)・12日(日) 場所 札幌市 札幌学院大学室内練習場 参加選手40名(スクール・中学校) コーチ 10名</p> <p>【交流戦】</p> <p>● 23年度北海道中学生交流試合 期間 6月～10月</p> <p>・主な会場 野幌総合運動公園ラグビー場 北海道バーバリアンズ定山溪グラウンド 小樽望洋台グラウンド</p> <p>・参加チーム 小樽ラグビー少年団 札幌ラグビースクール 旭川少年ラグビースクール 北海道バーバリアンズジュニア 北嶺中学校 立命館慶祥中学校</p> <p>・開催内容 交流試合12試合 開閉会式及び表彰式 札幌支部補助事業</p> <p>・付帯事業 北海道中学生合同練習会(6/12-13) 後援：日本協会 招待コーチ： 日本協会 中竹コーチングディレクター 勝田タレントIDマネージャ</p>	<p><成果></p> <p>① 3月中旬に開催される「東二本U15選抜大会」に向けて、道内スクールと中学校合同チームのセレクションを実施する強化合宿となった。</p> <p>② スクール・中学校の枠を超えて北海道のジュニアラグビーの基本コンセプトの共有化を指導者が確認出来た。</p> <p><成果></p> <p>道央地区のスクール・クラブ及び中学校チームが参加し、5ヶ月間にわたって交流試合を実施した。また、全道の全チームを対象に合同練習会を実施し、指導方針・方法の確認、選手の基本スキルの向上ならびに道内対象チームの交流親睦を図った。</p> <p>① 今年度で6年目を迎えて、定着しつつあるが、他事業の増加や選手数の減少により合同チームによる試合増によってゲーム実施数が減少している。</p> <p>② 中学生のチーム数が少ない北海道においては、数少ない試合機会であり、チーム指導上大きな利点がある。</p> <p><課題></p> <p>① 今年度の特徴として、全道的にジュニア選手の人数が少なく、単独チームでの構成が困難なチームが大部分で、合同チームの試合が増え日程調整に困難があった。</p> <p>② 学校行事および各チームの地区行事によって、今年度は十分な交流試合が実施できなかった。</p> <p><次年度の取り組み></p> <p>① 次年度、12人制ラグビーでは今年度同様に選手の人数が十分でないことから、参加チームの要望を確認の上、7人制の導入を検討したい。</p> <p>② ミニラグビーの試合数が全体に少ないことから、交流大会に積極的に導入したい。</p> <p>③ 全道的な参加を促したい</p> <p>④ 昨年と同様に日本協会等の協力を得て、合同練習会を実施し、基本的な指導方針の浸透を図りたい。</p>

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会	<p>【東日本スクール大会】 1stステージ 期日 10月16日 会場 北斗市運動公園陸上競技場 参加 北東北選抜、岩手選抜、北海道選抜</p> <p>2ndステージ 期日 11月12日13日 会場 神奈川県保土ヶ谷ラグビー場 参加 東日本地域の選抜チーム(14地区)</p> <p>【全国ジュニア大会】 期日 12月29日31日 会場 近鉄花園ラグビー場 参加 全16チーム</p> <p>三地域協会参加チーム内訳 関東協会スクール 神奈川スクール選抜 東京スクール選抜 長野スクール選抜 北海道スクール選抜 関東協会中学校 東北中学校選抜 神奈川中学校選抜 東京中学校選抜 関西協会スクール 大阪スクール選抜 兵庫スクール選抜 静岡スクール選抜 広島県中学生選抜 関西協会中学校 奈良中学校選抜 京都中学校選抜 愛知中学校選抜 九州協会 福岡中学生選抜 長崎中学生選抜 ※広島、福岡、長崎はスクール・中学校の 合同選抜</p>	<p><成果></p> <p>① 今年度はセレクションによって2年生5名を含む22名の北海道スクール選抜チームを選考した。</p> <p>② 1stステージの東北・北海道予選で3チーム中1位通過。2ndステージでは決勝戦まで進み、準優勝の成績を残した。</p> <p><課題></p> <p>① 東日本大会については、関東協会からの旅費補助金額が年々削減されており、選手や指導員の個人負担が増加するなど、運営会計上非常に厳しいものとなっている。</p> <p>② 北海道スクール選抜チームは、1stステージ制の導入後、初めての全国ジュニア大会参加を果たした。全道チームの指導員の協力や研鑽によって指導や競技水準の確実な向上が見られた。</p> <p>③ 一方、全国ジュニアの水準は非常に高く、さらなる指導方針の工夫と選手の強化が必要である。</p> <p>④ 全国大会の参加によって、指導員や選手の費用負担が増大した。今年度は、道協会や各チームからの寄付によってある程度負担軽減が実現したが、今後はより確実な予算措置が必要である。</p> <p>⑤ 今年度から選抜チームの指導員の若返りと増員を図った。今後指導者講習会などの機会を大いに活用し指導者の育成を進めたい。</p>
	<p>【東日本U15選抜大会】 期日 平成24年3月17日(土)18日(日) 会場 水戸市 ツインフィールド ケーズデンキスタジアム水戸</p>	<p><成果と課題></p> <p>① 中学校とスクールの合同選抜チームとして編成した。</p> <p>② 4試合中1勝3敗ではあったが、大きな点差にならず、全くグランド練習ができないこの時期としてこんごの向上が期待できる結果となった。</p>

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会(中学校担当)	<p>●北海道中学校選抜 東北遠征合宿 期日 4月29日(木)～5月2日(月) ※東北交流大会(場所:秋田県大湯村競技場、日時:4月30日・5月1日)に参加</p>	<p>〈成果〉 東日本大震災にまつわる諸事情を考慮して中止。</p> <p>〈課題〉 全国ジュニア東北予選参加の可能性や、参加者の経済的負担、学校事情も考慮して再考の必要あり。</p>
	<p>●第2回全国中学校ラグビーフットボール大会 北海道予選会 期日 7月18日(月)・23日(土)・25日(月) 会場 バーバリアン定山溪グラウンド 野幌ラグビー場</p> <p>参加校 函館ラ・サール中学校(22名) 立命館慶祥中学校(21名) 北嶺中学校(13名)</p>	<p>〈成果〉 ①札幌支部およびバーバリアンの協力により芝のグラウンドが確保でき、また、天候にも恵まれ滞りなく実施できた。 ②参加3チームのリーグ戦を3日日程で実施したので各チームの条件が均等になった。</p> <p>〈課題〉 ①3校の参加であった。参加校の増加が課題である。 ②6月から7月にかけては、各校とも学校行事が多く日程調整が難しい。</p>
	<p>●第30回北海道中学校ラグビーフットボール大会 期日 9月9日(金)～11日(日) 会場 月寒ラグビー場</p> <p>参加校 函館ラ・サール中学校(22名) 立命館慶祥中学校(18名) 北嶺中学校(15名)</p>	<p>〈成果〉 ①参加数3チームであったが、選手たちの目的意識は高く、年々質の高い試合内容に近づいている。 ②参加3チームなので予備日を追加して3日日程のリーグ戦で行った。体力面・安全面からも妥当であった。 ③道協会、札幌支部の協力で滞りなく実施できた。</p> <p>〈課題〉 ①3校の参加であった。参加校の増加が課題である。 ②3チームでリーグ戦を行うには、3日間の日程と会場の確保が必要である。 ③二つの全道大会を札幌で開催すると函館のチームが経済的に苦しい。定期的に函館で開催する必要がある。</p>

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高 校 委 員 会	普及指導講習会（15人制交流大会） 〈全国高体連ラ専門部 U18交流会〉 日 程 4月29～5月1日 会 場 北見市南町河川敷Bラグビー場 北見北斗高校	指導者 浅井邦昭・福田彰一・佐藤幹夫 鈴木大介・成田正人・ 平間慎理・山口昂希・田村朋弘 中野茂樹 参加者 生徒80名 レフリー5名 （奈良・佐藤・野々川・大山・濱） 〈成 果〉 選手は意欲的で能力も高く、全国大会に向けて良い練習、試合ができた。
	北海道高等学校U17強化指導講習会 〈日本協会 U17ブロックトレセン〉 日 程 6月11～6月12日 会 場 帯広市帯広の森球技場	指導者 中竹 竜二 氏（日本協会） 道 内 小野泰章・中澤孝弘・林英孝 指導者 参加者 生徒45名 〈成 果〉 継続的な指導が参加選手からチームへ浸透している。
	平成23年度第1回女子7人制ラグビーフットボール大会北海道ブロック予選会並びに講習会 日 程 6月12日（日） 会 場 帯広市十勝川河川敷グラウンド コーチ15名、選手24名参加	引率 田中彦好（天売高校） 中澤孝弘（大麻高校） 内容 25日（月）代表者会議／講習会 26日（火）開会式／講習会／チーム練習 27日（水）競技／講習会／レセプション 28日（木）競技／閉会式 29日（金）移動日 成果及び課題 今年度より女子セブンズの普及、強化の目的により菅平で開催の合同大会にU17、U18に併せて女子の交流大会が開催された。そのために道内には高校女子の選手は不在のためマネージャーや関心の高い生徒を集め全国大会へ出場した。 6月12日（日）帯広市で急遽、U16強化講習会に併せて開催し、道内各地より24名の女子選手を集めた。そのうち9名の生徒が全国大会へ出場した。本選では普及の部と経験者の部の2つのカテゴリーに分かれて講習会、競技を実施。北海道は初心者ばかりのチームのため普及の部で参加した。講習会等、競技の日程はかなりハードであったが生徒は積極的に活動した。試合はタッチゲーム

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高等学校委員会	<p>平成 22 年度北海道体育大会兼第 66 回国民体育大会北海道予選会(少年男子の部)ラグビーフットボール競技第 6 6 回国民体育大会北海道予選会少年の部</p> <p>日 程 6 月 11 日(金)～14 日(月)</p> <p>会 場 帯広市 帯広の森球技場</p>	<p>や軽いコンタクトゲームを行ったが徐々に慣れていきチーム一丸となり他のブロックの選手と交流を図った。女子の活動についてはほとんど情報がなく、未知の部分であったが全国には多くの競技者が存在し頑張っていることを知る。また、次年度以降 7 人制の大会に移行する予定であり道内選手の育成、普及強化が急務であり早期の体制づくりが必須である。</p> <p>参加者 440 名 (引率含む)</p> <p>成 果</p> <p>① 平成 16 年度から十勝支部で行っている国体道予選も今年で 7 回目になる。17 年度からは U17 のトーナメントも実施し、道内高校生の競技力向上と普及活動につながっている。大会運営ではポール設営、記録等に十勝支部協会クラブ・大学委員会から多くの協力を得ながら、スムーズに競技進行することができた。</p> <p>課 題</p> <p>① 年々ラグビー部員の減少に伴い少年 A、B の 8 支部代表トーナメントが難しくなり、少年 B は 20 年度、少年 A は 21 年度から参加チーム数、支部割りを考慮しながら大会方式を変更してきている。</p> <p>8 支部対抗戦 3 日日程においては選手選考がしっかり出来る反面、支部によっては経済的負担が大きいことから辞退する選手がいる現状である。</p>
委員会	<p>第 3 8 回北海道高等学校選抜ラグビーフットボール大会</p> <p>日 程 7 月 2 6 日(火)～3 0 日(土)</p> <p>会 場 野幌運動公園ラグビー場 月寒ラグビー場</p>	<p>茨城県のつくば秀英高校・兵庫県の神戸市立科学技術高校・青森選抜を招待し、道内各地区代表 9 校の合計 1 2 チームで実施いたしました。道外の強豪校との交流による北海道地区のレベルの向上を目指し、大会も 3 8 回を数えることとなりました。本年度も試合経験を増やすねらいで予選リーグ・決勝トーナメントと試合形式を変えました。結果は、青森選抜が優勝、札幌山の手高校が準優勝し、年々北海道地区もレベルの向上が実感できる大会となりました。</p>

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高 校 委 員 会	<p>第 21 回北海道高等学校 1 年生 U 1 6 ラグビーフットボール大会</p> <p>日 程 8 月 4 日（木）～6 日（土）</p> <p>会 場 北見市南町ラグビー場</p>	<p>参加チームは、過去最少の10チームとなった。予選は、リーグ戦形式で行い、その結果をもとに上位ブロック（リーグ戦）、下位ブロック（トーナメント戦）に分かれ実施した。次年度以降も、チーム数に応じて実施方法を検討したい。</p> <p>課 題</p> <p>① 実施時期は、北海道選抜大会に近くなりすぎないように配慮したい。 （※平成 24 年度は、8 月 8～10 日）</p> <p>② レフリーの確保が困難なため、参加チームのスタッフには、積極的にレフリーをお願いしたい。</p> <p>③ プログラムには、コート図や基本的なルールなどの記載も考えたい。（1 年生対象の為）</p>
	<p>第 64 回北海道高等学校ラグビーフットボール南北選手権大会</p> <p>日 程 9 月 20 日～24 日</p> <p>会 場 小樽市望洋ラグビー・サッカー場</p> <p>代表校 札幌山の手高校 遠 軽高校</p>	<p>当番校 小樽桜陽高校 参加者 4 0 0 名</p> <p>〈成果〉</p> <p>① 高校生最大の目標の大会 小樽支部のご協力で大会を終えることができました。</p>
	<p>第 14 回北海道高校セブンズ選手権大会</p> <p>日 程 10 月 1 日</p> <p>会 場 月寒ラグビー場</p>	<p>〈成果〉帯広・小樽を中心に今春のジャパンセブンズを編成</p>
	<p>平成 23 年度第 19 回北海道高等学校ラグビーフットボール新人大会兼第 13 回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会北海道予選大会</p> <p>日 程 平成 23 年 10 月 18 日（火）～22 日（土）</p> <p>会 場 北斗市 北斗市総合運動公園 函館市 函館根崎公園運動場</p>	<p>参加者 3 5 0 名 （引率含む）</p> <p>成 果</p> <p>① 3 年生が引退、新チームとして初めての試合でありながら各チーム、非常にまとまりがあり次年度に期待する試合であった。結果は優勝、札幌山の手高等学校、準優勝は遠軽高等学校となった。</p> <p>② 今年度函館支部で実施した。昨年度より全道 12 チームの参加となり、予選ブロック決勝トーナメント戦を行うなど多くの試合を経験させることができた。また、</p>

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高 校 委 員 会	<p>第1回北海道高校女子ラグビー交流大会</p> <p>日 程 11月5日(土) 13:00~16:00</p> <p>会 場 野幌総合運動公園ラグビー場</p>	<p>今年度より敗者戦も実施し、残念ながら予選ブロックを敗退したチームも多くの試合を経験させることができた。敗者戦においては予定していた通りゲームを行うのではなく、各校の諸事情、帰着の時間などを配慮して行うことができた。</p> <p>③ 大会運営では当番校制ではなく函館支部として引き受け、大会に参加しないチームの生徒がボールボーイ等の補助に、顧問が会場設営、記録などを担当し円滑に大会を進行することができた。</p> <p>課 題</p> <p>函館支部の現状としては2面とれるグラウンドが大沼トルナーレ競技場はあるが、急遽、開催が決定したため、予約が取れず、離れた会場(函館根崎、北斗市総合運動公園)での運営となった。また、会場の都合により予選ブロックは函館9試合、北斗市3試合のアンバランスが生じてしまった。1会場で9試合(1試合20分ハーフ)は、この時期、日没が早くなるため試合と試合の間隔を詰める(試合終了後すぐに次戦のチームがグラウンドに入場する等)を行う)、前半と後半の時間を4分とするなど考慮して何とか日没前には終了することができた。しかし、生徒のコンディション、安全面等を考えると、余裕を持った時間帯で試合に挑ませたかった。</p> <p>道内の高校女子選手を集め、交流大会を通じて親睦を深め、女子ラグビーの健全な発展と底辺の拡大を目指す。また、オリンピックやワールドカップを目指すプレイヤーの全国レベルでの交流・育成の場として、女子ラグビーの競技力向上を目指すものとする。</p> <p>併せて第91回全国高等学校ラグビーフットボール大会U18花園女子セブンズのセレクションを兼ねる。</p> <p>コーチ8名、参加者12名、補助選手2名</p> <p>内 容</p> <p>これまで花園大会の開会式直後に経験者の女子セブンズ東西マッチを開催。今年度より普及の部も同時に開催。よって、道内からの推薦者を選考することになった(各ブロックより1名は推薦)ため実施。道内の高校のラグビー部のマネージャーの他クラブに所</p>

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高等学校委員会	<p>北海道高校ラグビーU16強化指導講習会 日程 11月5、6日 会場 野幌ラグビー場</p>	<p>属している生徒（2名）も集まり有意義な交流会となった。その中で2名の生徒を推薦したが1名（富良野高校）の選考となった。</p> <p>指導者 日本協会（松尾・大東・原） 道高校委員会 参加生徒 1年生候補選手 51名</p>
	<p>第7回全国高等学校合同チーム大会 日程 平成23年7月26日～28日 会場 長野県菅平高原サニアパーク U17予選リーグ</p>	<p>対 東北 5-27 対 関東 0-92（予選 2敗） 決勝リーグ ボウル 対 北信越 17-14 対 四国 19-5（ボウル 2勝）</p>
	<p>U18予選リーグ</p>	<p>対 東北 26-5 対 関東 28-5（予選 2勝） 決勝リーグ カップ 対 近畿 0-15 対 九州 0-24（カップ 2敗）</p>
	<p>第14回全国選抜大会 平成24年3月31日～ 22年度代表校 札幌山の手高校 立命館慶祥高校 23年度代表校 札幌山の手高校 遠軽高校</p>	<p>U18東西対抗戦出場 小樽桜陽高校 長沼 希・久保 直人 小樽潮陵高校 榊原 陽介 美幌高校 大津 幸人 帯広工業高校 上田 隆太 厚別高校 大畠 知也</p> <p>※今年度の全国選抜大会は震災のため中止</p>

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高 校 委 員 会	<p>ジャパンセブンズ： 日 程 平成 24 年 4 月 14 日（土） 会 場 江戸川陸上競技場</p>	<p>※今年度のジャパンセブンズは震災のため中止</p>
	<p>第 66 回国民体育大会ラグビーフットボール大会（少年）10 月 3 日 山口県</p>	<p>1 回戦 対 三重県 3 1 - 6 4</p> <p>前半で勝負が決まってしまう悔やまれる一戦となった。</p>
	<p>第 9 1 回全国高等学校ラグビーフットボール大会 U 1 8 花園女子セブンズ 日 程 1 2 月 2 7 日（火） 会 場 近鉄花園ラグビー場 1 1 : 0 0 K O 普及 1 1 : 2 0 K O ハイパフォーマンス 2 5 日（日）集合／練習 2 6 日（月）練習</p>	<p>前記したとおり今後、女子選手の育成のためにもスクール、ジュニア、クラブ、高校、大学すべてのカテゴリーとの連携を密にすることが急務。</p>
	<p>イーストジャパン関東遠征 日 程 平成 24 年 3 月 16（金）～17（日） 会 場 流通経済大学</p>	<p>参加者 小野・成田・黒田 生徒 22 名 〈課題〉 1 競技力向上 2 遠征費用の捻出</p>

平成 23 年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
大学委員会	平成 23 年度北海道地区ラグビーフットボール学生連盟強化講習会 開催日：平成 23 年 5 月 7 日， 8 日	会場：野幌ラグビー場 〈成果〉 (1) 参加者は 5 大学から 23 名。講師の石井信輝さん（摂南大学准教授）と川口勉さん（東芝ブレイブルーパス OB）を招き、昨年に引き続き基本プレーの練習法やブレイクダウンの攻防のポイントなどを学んだ。 (2) 初日の講習会は、昨年と同様に、基本プレーの練習方法やラインブレイクやコンタクトについて攻守それぞれの視点に立った練習を細かく指導を受け、各チームとも参考になったと思われる。2日目は、ハンドリング（パス）やサポートラン等の指導を受け、ポジション別ではFW：ラインアウト・スクラム，BK：パス・ランニング・キック処理の練習。最後にBKがディフェンスについて，FWのモール練習の仕上げを行った。参加学生は、意欲的に取り組み短期間で自身の成長を感じた学生も数多くいたのではないと思われる。実りある講習会となった。 〈課題〉 (1) 講習内容について、事前に学生から要望を聞き、その要望から講習内容を決め、参加募集する計画を進めた。行事等が重なり参加できない大学があったため、次年度は日程調整を検討する必要がある。 (2) 講習内容は、昨年度から上乘せする内容であったが、大学ラグビーのさらなるレベルアップを図るためには、さらに上乘せを図れるような方策（参加者の半数は前年度参加者にする等）・体制づくりを検討する必要があると思われる。 (3) より多くの参加者を得ることと、特に遠方の大学からの参加を促すことは課題である。

平成 23 年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
大学委員会	<p>第 13 回北海道地区大学セブンズラグビーフットボール大会</p> <p>開催日：平成 23 年 7 月 23 日（土）</p>	<p>会場：月寒ラグビー場</p> <p>〈成果〉</p> <p>(1) 6 チームが参加した 1 部は道都大学 A が優勝、11 チームが参加した 2 部は北海道大学 B が優勝した。道都大学は 2012 年 5 月に秩父宮ラグビー場で開催される東日本大学セブンズ大会に北海道代表として参加する。なお 1 部は 3 チームずつのリーグ戦＋順位戦方式で実施した。</p> <p>(2) 毎年、この大会が月寒ラグビー場で開かれることで、選手の参加意欲、モチベーションは高まっている。</p> <p>(3) 専修大学北海道短期大学部と北海道拓殖短期大学は、インカレには参加せず、このセブンズ大会にのみ参加した。部員不足が深刻な問題となっているチームにとっては、この大会が一つの目標になっている。</p> <p>(4) 毎回参加してくれるレフリーが多く、レフリー間の交流も深まっている。</p> <p>〈課題〉</p> <p>(1) 全国大会へ出場できる 1 部への参加が少ない。</p> <p>(2) プレヤー以外、すなわち一般観客にも足を運んでもらえるような工夫が必要である。</p>
	<p>第 41 回北海道地区大学選手権大会 兼 第 19 回全国大学選手権大会予選 兼 第 62 回全国地区対抗大学大会北海道予選会</p> <p>開催日：平成 23 年 9 月 18 日～10 月 23 日</p>	<p>会場：各地区のグラウンド、帯広の森ラグビー場、小樽望洋台グラウンド、野幌ラグビー場、月寒ラグビー場</p> <p>〈成果〉</p> <p>(1) 参加チームは 1 部リーグ 6 校、2 部トーナメント 14 チームで、前年と同数であった。2 部には 2 チームが合同チームとして参加した（前年は 3 チーム）。</p> <p>(2) 1 部は 3 人レフリー体制に加え、メディカルと水係がビブスを着用することとし、公式戦の緊張感を得ることができた。なお、今年度は 2 部の試合もできる限り 3 人レフリー体制で実施した。地方開催の試合には大学委員が責任者として立ち会った。</p>

平成 23 年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
大学委員会		<p>(3) 集中開催は札幌の他、帯広と小樽で行った。加えて旭川でも2部3試合を同一会場で行った。いずれも支部の方々の協力を得てすべていいゲームが実施できた。</p> <p>(4) 月寒ラグビー場での最終ゲームは、例年同様、すべて接戦が展開され、人数は少ないが一般観衆の定着化も進んでいる。</p> <p>(5) 1部リーグは、初めてのケースとして3チームが1敗で並ぶ結果となった。規定通り当該チーム同士の試合におけるトライ数で順位を決定した。勝敗や順位決定方法を細かく定めておくことの重要性を実感した。</p> <p>〈課題〉</p> <p>(1) 1部、2部とも、15人以下での試合を余儀なくされるケースが少なからずあった。大差となるゲームも多く、安全対策と、部員数が少ないチームのモチベーションを下げない工夫も必要である。</p> <p>(2) 公式戦に参加する姿勢が見られないチームがまだ多い。ただし、プログラムの掲載写真や試合会場におけるマナーは前年よりは改善されていた。</p> <p>(3) 月寒ラグビー場の試合で、突風でテントが舞い上がり競技場外にまで吹き飛ばされる事故があった。競技場のスピーカーとテントを破損しただけですんだが、一つ間違うと大惨事に結びつく怖れがあった。</p>

平成 23 年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
社会人・クラブ委員会	<p>第 37 回北海道クラブラグビーフットボール選手権大会兼第 21 回東日本クラブトーナメント大会北海道予選</p> <p>【北海道トップリーグ】 平成 23 年 5 月 24 日～7 月 24 日</p> <p>【北海道チャレンジリーグ】 平成 23 年 6 月 12 日～9 月 25 日</p> <p>【北海道トップリーグ入替戦】 平成 23 年 10 月 16 日</p>	<p>【成果】</p> <p>北海道のクラブラグビーの底上げと各クラブチームのレベルアップを図ることを目的としたこの大会は、今年度で 37 回目を迎えた。</p> <p>北海道トップリーグ、チャレンジリーグ合わせて 13 チームがエントリー。トーナメント方式からリーグ戦方式に変更して以来、過去最多の参加チーム数となった。</p> <p>北海道トップクラブリーグでは、道内クラブの頂点を目指す 4 チームで構成。また、北海道チャレンジリーグには計 9 チームがエントリー。北海道を道北・道東ブロックと道央・道南ブロックの二つの地域に分け、それぞれのブロックごとにリーグ戦を行い、各ブロック 1 位の 2 チームがチャレンジリーグ優勝を争った。</p> <p>この年、北海道のクラブチームの頂点に立ったのは北海道バーバリアンズ A で、国内のクラブ大会でも常にトップを争う実力を存分に見せつけての優勝であった。準優勝は、1 勝 2 敗でサツテツクラブ、上磯ラガー、OTARU ラグビーフットボールクラブ（合同チーム）の 3 チームが並び、得失点差でサツテツクラブが 2 位の座を確保した。北海道バーバリアンズ A 以外の 3 チームの実力が拮抗している状況がうかがえる。</p> <p>2 位のサツテツクラブは、11 月に埼玉県熊谷市で行われた東日本クラブトーナメント大会へ出場し、準決勝で秋田ニッカクラブに勝利するも、決勝で神奈川県代表の Sharks に敗れ、準優勝であった。</p> <p>北海道チャレンジリーグ優勝は初エントリーのちとせ SKY FIGHTERS（合同チーム）。同準優勝は、昨年度同リーグ優勝のとかチェスとなった。</p> <p>北海道トップリーグ入替戦では、ちとせ SKY FIGHTERS がトップリーグ 4 位の OTARU ラグビーフットボールクラブをあと一歩というところまで追い詰めるも、最後は OTARU が意地を見せ北海道トップリーグの座を守った。</p> <p>一方、トップリーグ 3 位の上磯ラガーは、チャレンジリーグ 2 位のとかチェスを寄せつけないほどの力の差を見せ、安定した試合運びでトップリーグ残留を決めた。</p>

平成 23 年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
社会人・クラブ委員会	<p>2011 年東日本クラブ選手権大会 【第 8 回東日本トップクラブリーグ】 (ディビジョン 1 / 北海道開催分)</p> <p>平成 23 年 9 月 11 日 (札幌市月寒) 北海道バーバリアンズ 対 ドラゴンズ龍ヶ崎</p> <p>平成 23 年 9 月 25 日 (札幌市月寒) 北海道バーバリアンズ 対 神奈川タマリバ</p>	<p>大会全体として、随所に僅差のゲームが見られ、行き詰る試合が繰り広げられた。緊迫した試合を経験する中で、各クラブの選手の経験値が上がったものと評価している。</p> <p>また、チャレンジリーグのレベルも年々向上し、トップリーグのチームを脅かすクラブが出現してきたのもこの大会の成果であると評価している。</p> <p>【課題】</p> <p>チームスタッフである交替指示者、メディカルサポーター、水係、記録係など、選手とは別に独立して参加すべき者の配置に苦慮しているクラブが多く、安全の確保と円滑な大会運営にあたり、支障が出るケースが散見された。また、各クラブのスタッフが各支部の競技運営役員を兼ねることが多く、運営面全般でも人材確保に苦慮している状況があった。</p> <p>ただし、スケジュールの詳細がなかなか決定しない中、レフリー委員会の全面的な協力により、必要な資格を持ったレフリーを派遣していただき大会が実施できた点は、感謝申し上げたい。</p> <p>今後、各クラブにおいては、選手の育成のみならず、運営スタッフの確保やレフリーの養成などについても真剣に取り組んで行かなければならないと感じた。</p> <p>【成果】</p> <p>今年度の東日本トップクラブリーグにエントリーしている北海道バーバリアンズのホームゲームとして月寒にて 2 試合を行った。</p> <p>日程が、北海道クラブラグビーフットボール選手権大会等の試合とも重なっており、担当クラブ委員の確保に苦慮したが、従事できる委員で大会規定に沿った適正な運営を実施することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>運営を担当する委員の確保に恒常的に苦慮している現状がある。また、東日本レベルの公式戦を実施するにあたって、円滑な運営を行うためのノウハウを持った委員の育成の必要性を感じている。</p>

平成23年度メディカル・安全対策委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
メ デ イ カ ル ・ 安 全 対 策 委 員 会	<p>1、メディカルサポーター養成・更新講習会</p> <p>平成23年7月1日 札幌市道新にて全道大会前日の監督主将会議後に開催。</p> <p>この他、函館・旭川・空知支部において単独で実施す。</p>	<p>安全対策上の問題点については、内容がメディカルサポーター養成講習と安全推進講習と同様なものとなり差別化が難しくなっている。</p> <p>並行して講習会を行うのは講師確保の点から、あるいは時間的にも困難になりつつある。</p>
	<p>2、グラウンドドクター派遣</p> <p>可能な限りグラウンド Dr 派遣に務めているが実数把握は困難である。昨年度と同様に全道レベルの大会には1名は派遣している。</p>	<p>グラウンド Dr 派遣について、今後とも努力していくが、地域の医師不足と同様に確保が困難となっている。</p> <p>このような中で北海道ラグビーフットボール協会推薦で日体協のスポーツドクターの資格を2名が習得している。今後もこういったラグビーに理解のある Dr を養成していきたい。</p>
	<p>3、安全推進講習会</p>	
	<p>3月12日 函館支部開催(函館稜北高校)(三浦) 参加29</p>	
	<p>3月19日 空知支部開催(芦別アンシントンホテル 坂東) 参加10</p>	
	<p>3月27日 帯広支部開催(帯広市民農園 サラダ館 田村) 参加9</p>	
	<p>4月4日 札幌支部開催(平野) 参加8 4 根釧支部開催(中標津総合会館 三ヶ田) 参加14</p>	
	<p>4月23日 旭川支部開催(旭川農業会館 林) 参加13</p>	
	<p>4月24日 北見支部開催(北見北斗高校 浅井) 参加 14</p>	
	<p>5月16日 札幌支部開催(平野) 参加 6</p> <p>以上。</p>	<p>平成23年度も全てのチームが安全推進講習会受講した。毎年開催されると思われ今後とも各支部の関係者各位にはご尽力を賜りたい。</p>

平成 23 年度 広報委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
広報委員会	1. ホームページ運営 2. マスコミ対応 3. 地域向け広報 4. 有料試合、大会での広報	<p><活動内容></p> <p>1. ホームページ運営</p> <p>1.1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者や社会の多種多様なユーザーに対する協会活動の内容を把握してもらうこと。開かれた活動の展開 ・加盟チーム及び協会関係者の情報共有化 ・マスコミ報道の誘導 <p>1.2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用、管理、メンテナンス、コンテンツの作成 ・問い合わせの受付 ・上部組織からの通達等の伝達 ・大会及び講習会の情報について各委員会からの直接と広報委員会を通じたの情報発信 <p>2. マスコミ対応</p> <p>2.1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報道関係者との関係の構築 ・マスコミ報道の促進 <p>2.2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会情報、事業計画及び大会・イベントなどの報道資料の提供 ・報道機関とのイベントの共催、協賛広告出稿 <p>3. 地域向け広報</p> <p>3.1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーファミリー増大のための地域・自治体・公的機関との関係構築と提携促進 ・広告協賛及び有料試合チケット販売促進 <p>3.2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会、イベントの情報発信 ・合宿誘致、チーム立ち上げなどへの情報提供 ・有料試合ポスターの掲示依頼 ・有料試合におけるチケット販売依頼 <p>4. 有料試合、大会での広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターの作成、掲示並びに配布 ・記者会見、会見レポート作成 ・ホームページへの協賛企業の獲得と広告掲載 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでの大会情報の発信が滞ることがある。管轄委員会から直接情報を発信する手段として、掲示板閉鎖時のパスワード入力を運用した。 ・有料試合観客数を見ると情報発信力が弱いものと考えられる。関係者を始め、地方自治体、学校、ラグビー支援者、現在はラグビーに関心を持っていないスポーツ愛好者などへ、提携の促進、ラグビーを目に触れる機会を増やす、認知度を向上させるためにあらゆる手段で情報を発信する。

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
ゴールデンオールディーズ委員会	* 6月18日(土) 第1回ゴールデンオールディーズ委員会 * 6月19日(日) 招待試合 慶應義塾大学対明治大学の競技役員にて協力	* 競技役員として大会運営に協力する * 会議を開きラグビーに対する情熱を維持し、普及・発展に貢献することを確認できた * 会員を増やし普及、発展、大会運営に協力できる体制を作る必要がある

平成23年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
財務委員会		<p>今年度は、安定的な財源を創出できるものを構築したいと「JRFUメンバーズクラブ」の北海道版「北海道ラグビーサポーターズ会（仮称）」を立ち上げたいと立案しましたが、効果が期待できる内容にならず、またその運営にも専従者が必要なる位の仕事量になる難しさ予想され、暗礁に乗り上げている状態です。</p> <p>参考までに「JRFUメンバーズクラブ」の内容を紹介します。 メンズ会員、レディース会員（入会金 1,000円、年会費 3,000円）とユース会員（入会金 1,000円、年会費なし）があり、主な特典として①会員証の発行 ②日本協会主催の招待券の進呈 ③人気試合のチケットや関連グッズの先行または優先販売 ④会報（年4回）の発行 ⑤メールニュース配信などがあります。</p> <p>道サポーターズ会もJRFU同様、高額ではない会費で多くの会員を募り、その余剰金を協会活動費の一部に充てようとするものであるが、理事及び評議員の募集に関する労力や時間の負担が多くなるなどの課題はありますが、引き続き検討していきます。</p>